

## 口腔衛生委員会報告

### 疾病ハイリスクアプローチモデル事業について

#### 1 趣旨

岐阜県内のDMF T指数は、12歳児で0.39本であり、全国平均（0.68本）と比較しても低い結果となっている。しかし、一部の幼児児童生徒等に複数本のむし歯が集中していることや、歯肉炎を所有する割合が依然として高いという結果を受け、口腔衛生委員会では、その改善とさらに全体の底上げを行うため、平成23年度より「疾病ハイリスクアプローチモデル事業」を行ってきた。事業に継続して取り組んだモデル校では、むし歯や歯肉炎健康課題をかかえる児童生徒に個別指導を行うことで、児童生徒全体の向上が図られ一定の成果が得られたが、その後、疾病被患率が高い傾向の歯肉炎に焦点を当てた指導の在り方を研究するため、モデル事業を実施してきた。

今年度、委員会では幼児・児童生徒の口腔疾患の実態と問題点を把握しその対策を図るため、委員会にて検討を行い、昨年度新型コロナウイルス（COVID-19）流行によって実施できなかったハイリスク・アプローチモデル校事業を計画した。減少傾向にあるむし歯に対し、依然として疾病罹患率の高い歯肉炎に焦点を当てモデル事業を実施し、その取組や成果についてモデル校に報告していただき、さらに県内の学校に具体的な取組を紹介し、広く啓発を行うことにした。

#### 2 疾病ハイリスクアプローチモデル校事業の流れ

##### (1) 対象

定期健康診断において以下の項目に該当する幼児児童生徒

- ① 未処置歯3本以上を有する者
- ② 歯垢の状態2の者
- ③ 歯肉の状態2の者

※これらの項目のうち、単独あるいは複数の項目を選択し、全校で40名程度の幼児児童生徒を対象とする。人数の調整により全学年としても良い。したがって対象児童生徒の未処置歯2本以下、歯肉・歯垢の状態が1になることも考えられる。

##### (2) 指導 ※指導前に家庭に連絡する。（家庭へは「ハイリスク」という言葉は伝えない）

###### ① 集団指導

- ・内容は学校歯科医と協議の上で決定し、養護教諭が行う。
- ・学年ごとに分けて少人数で行うことが理想だが、日程の都合で複数学年を一度に行ってもよい。
- ・児童会、生徒会活動の取組として行ってもよい。

###### ② 個別指導

- ・学校歯科医と協議の上、保健室にて養護教諭が個別指導を行う。

###### ③ 学校歯科医による保健に関する指導

①②終了後に、全体指導を行う。（保護者参加型が望ましい）

※あくまでそれぞれの学校の実情に応じて、実施し易い方法で行うこととする。

##### (3) 疾病ハイリスクアプローチの取組の評価

疾病ハイリスクアプローチの取組は、集団及び個人の評価を行う。

###### ① 歯科検診果による評価

- ・昨年度との経年比較
- ・定期の歯科検診との比較（秋の歯科検診を予定している場合）

###### ② 養護教諭の観察による評価

###### ③ 児童生徒、保護者の意識や行動の変容等（アンケートや感想）

###### ④ その他

##### (4) モデル校

- ・小学校（瑞穂市立西小学校・岐阜市立長森南小学校）
- ・高等学校・特別支援学校（県立関商工高等学校・県立大垣特別支援学校）
- ・幼稚園・保育園（郡上市立幼児教育センターやまびこ園）

##### (5) 報告

今年度の取組については、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が完全に収束していないため、ハイリスクアプローチに限らずコロナ禍でもできる取組の報告を依頼した。

12月24日（金）までに終了し、事務局へ取組報告書を提出。

## ■ 郡上市立幼児教育センターやまびこ園

### 1 子どもの実態

本園は保育園と幼稚園の複合施設であり、0～4歳児までは保育園、5歳児が幼稚園に所属している。現在159名が在籍している。

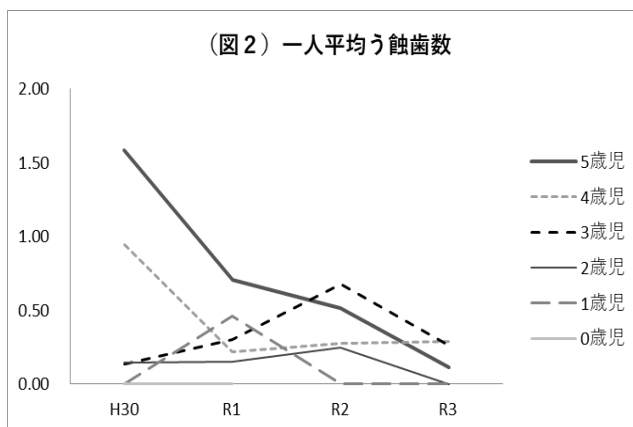
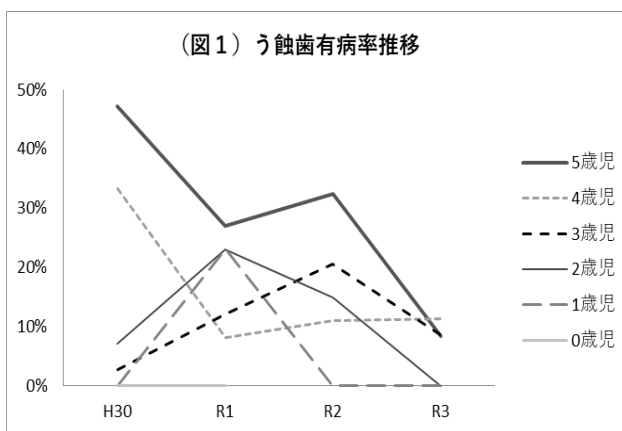
本園では年一回（6月前後）歯科検診を行い、その結果を保護者に通知し、むし歯や歯列など異常に異常がある場合は医療機関の受診を勧めている。今年度の結果概要は以下の表の通りである。

幼児教育センターやまびこ園 歯科検診結果(R3.6.10実施)

	総数(人)	う蝕歯保有児(人)	処置歯(サフライト塗布含)保有(人)	咬合異常(人)	う蝕歯保有児	処置歯(サフライト塗布含)保有児
5歳児	36	4	9	1	11.11%	25.00%
4歳児	35	7	11	6	20.00%	31.43%
3歳児	46	3	1	9	6.52%	2.17%
2歳児	26	0	0	2	0.00%	0.00%
1歳児	15	0	0	0	0.00%	0.00%
0歳児	1	0	0	0	0.00%	0.00%

おおむね3歳になるまでに乳歯が生えそろう、5～6歳にかけて永久歯に生え変わっていき、生え始めの歯はむし歯になりやすいといわれている。本園の健診結果から、4・5歳児はう蝕歯罹患率がほかの年齢に比べ高くなっている。4・5歳児のう蝕歯はすべて乳歯であるが、今後の永久歯への影響を予防するため今後も重点的な啓発に努めたい。

近年は、全体的にむし歯罹患児数及び一人平均う蝕歯数については減少傾向があり(図1・2)、歯科健診後の受診にも積極的な保護者が多く、前年度に多くむし歯があっても次年度には大幅に改善されている事例がある。新型コロナウイルス感染症の流行以来、感染予防の観点から園では歯みがきやうがいを中止しており、保護者の就労の都合上長時間園で過ごす幼児もいる中、十分な口腔ケアが園ではできていないながらも有病率の低下が見られることから、保護者の口腔ケアについての意識が高まっていることがうかがえる。



## 2 歯科保健活動の様子

### 園児への啓発

飛沫による感染拡大予防のため、食後の歯みがき・うがい・ブラッシング教室を中止としたが、代替として食後にお茶を飲む習慣の徹底や「かみかみ教室」を行う。

「かみかみ教室」の様子



かたいすめをよく噛んで食べる

また、園での給食やおやつには、しっかり噛むことを意識したもの（すめ、根菜を使った献立等）を組み込んでいる。

### 家庭への啓発

- ・園での歯みがき・うがいの中止を知らせ、その分家庭で丁寧に歯みがきや仕上げみがきができるよう理解を求めた。
- ・むし歯予防デーに合わせた「歯みがきカレンダー」や長期休みの際の生活リズムチェックカード等で、毎日の歯みがき及び仕上げみがきへの啓発を行う。
- ・健診後の受診への通知に対してなかなか受診してもらえない場合は、連絡帳や送迎時のコミュニケーションを通して、個別に勧めていった。



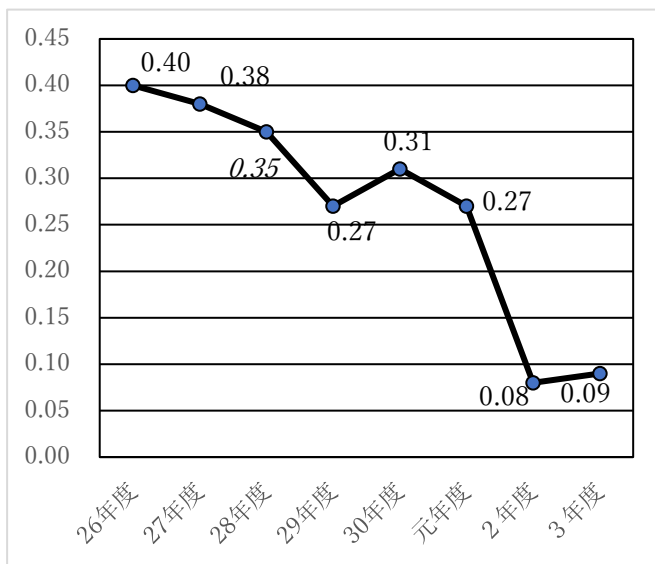
## 3 成果と課題

- ・「かみかみ教室」では、固いすめを喜んで食べる子もいる一方で、嫌がる子や食べることができない子も見られたが、その後のおやつで何度か食べていくうち、少しずつ抵抗なく食べられるようになってきている。今後もしっかり噛むことの大切さを伝えながら、継続して機会を設けていきたい。
- ・健診後の医療機関への受診については、個別の働きかけによりほぼ受診してもらえている。通知のやり取りにとどまらず、保護者との日常的なコミュニケーションの中での働きかけを大切にしたい。

## ■ 瑞穂市立西小学校

### 1 児童生徒の実態

DMF 歯数（6年）永久歯



新型コロナウイルス感染症の拡大が令和元年度の末からで（令和2年3月～5月休校）、それから約2年が経とうとしている。学校での生活様式も変わり、常にマスクをし、口の中はお互いに見えない状況。給食後の歯みがきや、歯みがき指導を中止する学校も多く、う歯や歯垢、歯肉の状態が心配されるようになった。

本校では、県歯科医師会等の指導をもとに、「学校での歯みがきルール」を児童に周知し、給食後の歯みがきを継続実施してきた。（今年度9月の緊急事態宣言期間中を除く。）そのため、歯科検診の結果においても、う歯・歯垢・歯肉の状況は、よい状態を保っている。

歯垢・歯肉の状態が1または2の児童（割合）

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
歯垢	42.1%	22.5%	30.8%	30.5%
歯肉	24.6%	8.3%	10.1%	9.9%



### 2 歯科保健活動の様子

#### 今年度の歯科保健活動（行事）

- 4月・・・歯科検診（全校）
- 6月・・・全国小学生歯みがき大会参加（5年生）
- 7・8月・・・歯みがきカレンダー・歯垢染め出し
- 11月・・・歯科衛生士による口腔衛生指導（学級毎）
- 年5回養護教諭による給食後の歯みがきチェック

新型コロナウイルス感染予防対策について、養護教諭より全校児童へ指導。（一部）

#### 児童委員会の取組

○全校に発信する取組『保健委員とぴかぴか3周みがきをしよう』

【昼休み打ち合わせ】委員長・副委員長・書記を集め、スタート活動の検討をする。

「窓開け」「歯みがき」について取り組みたいという意見が出る。

具体的にどんなことができるかを出し合い、音楽に合わせて放送室からみんなと歯をみがくという案がでた。



「歯みがきなら、委員が各教室へ行って、前に立ってみんなと一緒に歯みがきをするのはどうか？」という意見が出たが、「(コロナ禍であるため)今は、無理か？」という今の状況を考慮する発言があった。そこで、養護教諭が「電子黒板の中から一緒にやっては？」とアドバイスをし、「放送室だったらいいよね。」「放送室でも自分がみがくのは、放送委員の子に(対面になるので)悪いから、歯の模型を使ってはどうだろう。」「音楽と映像と同時に教室に送れるかな？」等と保健委員同士の対話から、また養護教諭との対話を手掛かりにして、『コロナ禍であるため通常の活動はできない。しかし他の方法もあるのでは』といった、課題を解決するために一人一人が自分の考えを出し合って活動案を作り上げた。

#### 【委員会の時間 5/6】

- ・歯みがきの音楽に合わせて、それぞれが実際に顎模型を使って「3周みがき」をする動きを合わせる練習をする。(顎模型に慣れる。)
- 養護教諭は、CDとデッキ、歌詞カード、顎模型、歯ブラシを準備。

次の委員会の時間に、3周みがきの動作がスムーズに練習できるように、養護教諭が委員長等に声をかけたところ、6年生が昼休みに集まり練習。その中で、歌詞カードを持って指で押さえて合図をする児童、カメラだとどう映るか確認する児童が現れた。自動放送の音楽が流れると声は入らないことを伝えると、「合図をする人は『はい』と声をかけてはどうか。」「教室で見る全校のみんながわかりやすいように、動画の中に「かみあわせ(上)」等と書いたカードを作って映そう。」といった提案から、「その2つの役割は補助として(映らないところで)自分たちがやろう。誰がいつやるか決めよう。」「カードはどんなものにしようか。」といった話し合いに発展していった。

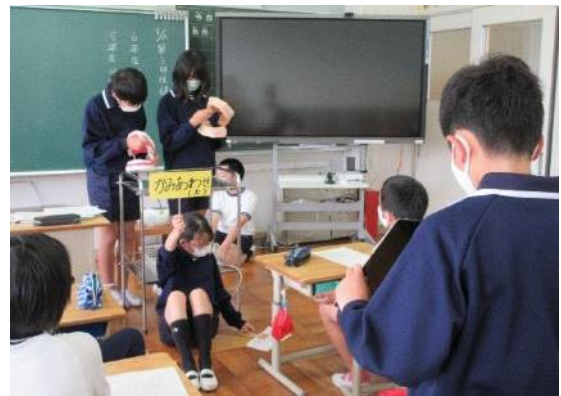


#### 【委員会の時間 5/25】

- ・6年生が5年生に見本を見せたあと、5・6年生がペアになって、歯ブラシの動かし方や順番を5年生が学ぶ。

#### 【委員会の時間 5/25】

- ・6年生のリードによって、5年生が学び、7グループのリハーサルが順調に行われた。昼休み、6年生は何度もいろいろな役割を交代して練習をしたため、自信をもって、5年生に教えることができていた。





## 児童集会 (5/28) の発表

全校へのビデオ放送

- ① 「窓開け放送」について (ポイント)
- ② 歯みがき動画『保健委員とぴかぴか3周みがきをしよう』の活動の願いと開始日について

### 【6月1日～9日までの7日間】

歯みがきタイムに『保健委員とぴかぴか3周みがきをしよう』を実施する。



ただ一緒にみがくだけでよいのだろうかと養護教諭が問いかけに、委員で相談し、正しくみがくためのポイントを3周みがき週間に伝えていこうということになった。

歯みがきタイム『保健委員とぴかぴか3周みがきをしよう』の期間中の6月2日に、お昼の放送にて「正しい歯みがきの5つのポイント」を紹介 (ビデオ放送)



後日、放送内容を廊下掲示物にし、意識継続を図った。



### 養護教諭の取組

#### ○継続して実施する養護教諭による給食後の『歯みがきチェック』

歯科に関する学校行事はあるが、口腔衛生に関する意識を継続させるために、年5回の「歯みがきチェック」を今年度より実施することにした。

※1日1学級 6月からスタート (1学期1回・2学期2回・3学期2回 (予定))

※学級廊下で、みがき終わった児童からチェックをする。

※コロナ禍であるため前歯と歯ブラシのみの点検を実施。

※唇を上げるために綿棒のみを使用。

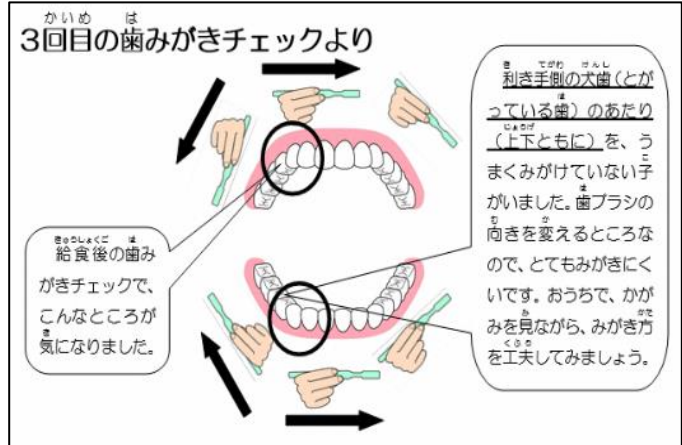
※養護教諭が指摘した部分（みがき残しがあるところ）を本人が確認できるように、鏡を見せながらチェックをする。

※顎模型を持参し、歯ブラシを当てる場所や歯ブラシの動かし方も必要な児童には指導する。

※歯ブラシは、毛先が広がっていたり、汚れていたりする場合は、取り替えてくるよう指導する。



「12月保健だより」一部



### 〈歯みがきチェックを実施して〉

- ・ 歯科検診でう歯が見つかった児童は、みがき残しが多い。(上手くみがけない。)
- ・ 利き手側の犬歯のあたりが上手くみがけない児童が多い。原因は、歯ブラシの向きを変えるところであるため、器用に歯ブラシを使えなかったり、みがき損ねてしまったりする。
- ・ みがき残しが特に多い児童を、保健室にて個別で数回指導したことで、その児童はなかなか行かなかった歯科医院に受診をするようになった。
- ・ 3回目以降、状況を記録していくことにした。(変化を見ていく。)

第3回チェック結果	1年	2年	3年	4年	5年	6年
前歯にみがき残しがあった児童数(人)	4人 ／24人中	7人 ／39人中	7人 ／27人中	10人 ／40人中	10人 ／39人中	3人 ／33人中

### 専門の方からの指導

○全国小学生歯みがき大会（6月）対象：5年生





○歯科衛生士による歯みがき指導（11月）対象：全学級



「全国小学生歯みがき大会」「歯科衛生士による歯みがき指導」を実施した。  
歯ブラシやデンタルフロスを使っての清掃・歯垢の染め出し等は、感染予防のため実施を控えたが、通常接していない専門の方の指導等をできる範囲で行ったことは、口腔衛生に対する意識は少なからず高めることができた。

児童の感想

- 【2年】やさしく毛先を使って歯をみがかないと、こうかがないことを初めて知りました。
- 【4年】いつもはめんどろで、きちんとみがいていなかったけど、話を聞いてちゃんとやろうと思いました。
- 【6年】『かむ』ことを大切にすることで、いろんな病気等を予防できることがわかったので、今までよりもっと食事をするときたくさんかむことを意識したいです。

保護者より

- ・ この勉強をしてから家でも「歯を白くしたい！」とみがいていました。意欲が出てきたので良かったと思います。その気持ちを忘れずに1本1本ていねいにみがこうね！
- ・ 歯の働きがしっかり理解できたようですね。改めて歯みがきの大切さがわかったと思うので、これからも歯みがきががんばれ！
- ・ 学校で教えてもらったことを、たくさんお話してくれました。家で親が子どもに言うだけでなく、学校でこういう機会があると気持ちが引き締まるのでありがたいです。

### 3 成果と課題

○新型コロナ感染予防を意識しながら実施してみてよかったこと（児童生徒の反応等）

- ・ 児童保健委員会では、子どもたち自身がこの状況を受け止め、そこでできることは何かを考え、電子黒板を通して全校と繋がり、活動を進めることができた。全校が見やすいように、理解しやすいようにするにはどうしたらよいか工夫をし、練習を重ねることによって、保健委員自身も歯みがきに対する意識（歯ブラシを細かく動かす・歯ブラシの持ち方を再確認する等）が高まった。
- ・ 専門の方からの指導・養護教諭による指導については、相談をしながらできる範囲で実施した。毎年ある保健行事が無くなることは、児童の口腔衛生に対する意識低下が予想されるため、実施することができて大変よかった。

●来年度に向けての課題

- ・ 形を変えながらも口腔衛生に関する行事等を実施してきた。充分でない部分もあったが、来年度も、感染の流行状況を見ながら子どもたちへのアプローチを継続していきたい。



## ■ 岐阜市立長森南小学校

### 1 児童生徒の実態

本校は学級数24学級（内特別支援3学級）、児童数は699名である。4月の歯科検診で要受診と診断された323名中、183名が受診をしており、受診者率56.7%となっている（12月3日現在）。新型コロナウイルス感染症の予防対策が始まる前は、給食時間の終わりに5分間歯みがきの音楽をかけ、積極的に歯みがきをするように呼びかけていた。現在は歯みがきの音楽はやめ、積極的な呼びかけはせず、歯みがきをしたい児童が静かにみがくようにしている。歯みがきをしていない児童については、家に帰ってからなるべく早くうがい等をするように呼びかけをしている。

### 2 歯科保健活動の様子

#### (1) 歯科保健に関する指導

毎年3年生に「親子はみがき教室」を位置付けている。正しい歯のみがき方について歯科衛生専門学校の学生、歯の健康については学校歯科医より講話をしていただいていた。今年度は「密」を避けるため、保護者の参加はやめ、学生が作成したDVDを基に担任が補足しながら児童へ指導を実施した。模型を使って歯ブラシの持ち方や動かし方について確認した。感染症予防のため染め出しを中止し、3分間歯をみがく真似をして、時間の長さを確認した。



#### (2) げんきもりもりマニフェスト

望ましい生活習慣の定着をめざし、「元気もりもりマニフェスト」を年3回実施している。この中に「1日3回歯みがきができたか」の項目を入れ、児童の歯みがきの定着を目指した。長期の休み明けに実施することで、生活リズムが崩れがちな児童の意識を改善することができた。

月 / 日	よう日	すいみん	家での子えいかつ		あさごはん	はみがき
		おきる時こく 6時半または家を出る1時間前 ねる時刻 1・2ねん 9時 3・4年 9時半 5・6年 10時 じぶんのめあてを書こう。まも れたら、Oをつけよう。 時 分におきます。 時 分にねます。	ノーゲーム ができた 今までゲー ムをしてい た時間は、お うちの人に 学校でので きごとを話 そう。	うんどうが できた うんどうす ると、きも ちがすっき りして、い るいるなこ とにやる気 がでるよ。	あさごはんをたべた ごはん・パン、しゅ さい（肉や魚、たま ごなど）やるもの などを組み合わせ、 バランスよくたべよ う。	3回みがくことが できた 歯と歯の間、歯と 歯ぐきの間、おく 歯のみぞなど、よ くれのたまりやす いばしょを、とく にていねいにみが こう。

### (3) 歯科保健に関係する食に関する指導

年間計画で位置づけられている食に関する指導を栄養教諭が行った。

<2年生>ねらい：望ましいおやつや量の量や時間を理解し、自分にあったおやつやの食べ方を考える  
食事のリズムが乱れがちになる夏季休業の前に、おやつやの食べ方を学習した。おやつやの食べ過ぎやだらだら食べは虫歯の原因になることを知り、自分の生活にあったおやつやの食べ方の約束を決めた。



保護者に学習プリントを確認してもらい、夏休みに一緒に約束が守れるようにした。

<3年生>ねらい：よくかむと体にいいことがあることが分かり、噛み応えのある食品を進んで食べ、健康なからだを作ろうとする意欲をもつ。

よく噛むことの大切さについて、歯みがき教室の後に実施した。よく噛んで食べることで歯並びがよくなることや噛み応えのある食材、給食の献立の噛むための工夫を説明し、普段の食事から噛むことを意識できるようにした。学習したことを給食の時間に実践できているかを確認した。

#### <児童の感想>

- ・よく噛んで食べることの大切さが分かりました。
- ・柔らかいものばかりでなく、かたいものも意識して食べるようにしたいです。
- ・しっかりかんで顎を強くしたいです。



### 3 成果と課題

昨年度実施できなかった親子歯みがき教室をDVD学習という形を変えて実施できたことはよかった。しかし知識を身につけることはできたが、染め出し等の体験学習ができなかったため、自分の歯のみがき方の課題を見つけることが不十分であったと考えられる。

食に関する指導は、歯みがき指導を行った後に実施したことで、健康な歯をつくるためにはどのような食生活がよいのか理解を深めることができた。食生活を改善するためには、繰り返しの指導が必要である。しかしコロナ禍では、給食の時間の指導が十分にできない。全校放送や給食たより、学級活動などの時間を利用して計画的・継続的に指導をしていく必要がある。

## ■ 関市立関商工高等学校

### 1 児童生徒の実態

本校の歯科検診受診率推移

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
受診率(%)	25.0	31.8	21.9	42.1	50.4	42.2	39.4	28.6	16.1	48.3

(令和3年度は、令和3年12月7日現在)

本校の昨年度までの受診率については、平成28年度の50.4%をピークに年々低下し、令和元年度は28.6%、令和2年度は16.1%と減少傾向にあった。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に対する不安により、時間が確保できていたが受診を控える傾向にあったため、低い受診率であった。

例年の受診しない理由は、自覚症状がない、時間がない、お金がかかる、など。

本校の令和3年度の受診勧告数は、全校生徒数808人のうち728人(約90%)であった。

### 2 歯科保健活動の様子(太字はコロナ禍で変更したもの)

#### (1) 検診当日に結果を返却する

→意識の高いうちに受診行動へとつながるように。

検診時には、歯科校医の先生からも口頭で受診するよう指導をいただいている。

#### (2) 夏休み前の三者懇談中にお知らせ配布する

→長期休暇に時間を確保して利用して受診できるように。

保護者に状態を知っていただくように。

#### (3) 便りでお勧め等歯科に関する情報の発信(5回程度) ※例年は3回程度

→受診に対する意識向上のために。

口腔の健康に関する知識として理解を促すために。

#### (4) 個別指導(複数齲歯のある3年生を対象) ※例年は1年生の未受診者を集団指導

→卒業までに受診し、健康な口腔状態で進学・就職できるように。

### 3 成果と課題

今年度の受診率は48.3%と大幅に伸びた。その要因については下記の点があげられる。

①新型コロナウイルスの影響で、部活動に制限が設けられ、時間の確保ができたこと

②検診時に学校歯科医の先生から直接のご指導いただけたこと

③ 個別の指導を実施したこと

しかし、まだ約半数の生徒が受診できていない。受診しない生徒の多くは、子どものころから歯科への意識が低く行動できていないと推測され、行動の変容は難しい。そんな生徒たちの行動変容に向けて、どう取り組んでいくのかが、来年度に向けての課題である。

## ■ 大垣特別支援学校

### 1 児童生徒の実態

本校は、小学部から高等部まで255名の児童生徒数である。歯や口の健康づくりに関しては、学校歯科医と連携し小学部1年生の児童と保護者を対象にした「親子歯みがき教室」、中学部1年生と卒業前の高等部3年生を対象に「歯みがき教室」を行っている。また、小中学部の児童生徒の希望者には、週一回のフッ化物洗口を行っている。日常的には、給食の歯みがき指導や、口腔ケアが必要な児童生徒に関しては、口腔マッサージ等を教員が行っている。

例年の歯科健診では、50～60%の児童生徒が、齲歯や歯肉などの異常所見がある。今年度の歯科健診結果は63%の児童生徒に所見があり、小学部3割、中学部7割、高等部8割と学部が上がるごとに有所見者の割合が高くなっている。

コロナ禍においては、感染予防のため、毎日の歯みがき指導の際に介助が必要な児童生徒は介助が出来ず、十分なブラッシングができていない状況にある。

### 2 歯科保健活動の様子

#### (1) 歯科健診

大垣市内の学校は、大垣市教育委員会管轄の保育園から中学校までの健診と連動しており、自校の学校歯科医に加え、大垣歯科医師会より歯科医師の派遣を受けて歯科健診を実施している。

昨年度に引き続き、大垣歯科医師会より指示があり、感染対策を講じた方法で実施した。具体的には、歯科医の防護（ガウン・マスク・フェイスシールド・手袋）、一定の間隔を開けた整列、ダブルミラーを使用し口腔内に触れない等の方法で実施した。本校児童生徒の中には、健診時に口を大きく開けることが難しかったり、怖がって途中で口を閉じてしまったりと、ダブルミラーでの健診が困難な場合も多い。そのため、保護者へ理解を得るために保健だよりで説明し、治療勧告書に十分に診察できなかった部分を記入して保護者へ報告した。

#### (2) フッ化物洗口

フッ化物洗口の実施までの手順としては、小・中学部の保護者へフッ化物洗口の効果と方法を知らせ、希望調査を行う。希望のある児童生徒には、学校でうがいが可能か、薬液の飲み込みの危険がないかなどの確認を行い、実施が可能な児童生徒のみ実施する。実施が困難な児童生徒については、保護者に実施ができないことを伝える。学校歯科医にフッ素濃度の確認を行い、週一回法で行う。

#### (3) 集団歯科保健指導

##### ① 小学部1年生 親子歯みがき教室

対 象：小学部1年生 22名	講 師：学校歯科医 2名
内 容：むし歯になりやすいおやつ、ブラッシング指導、保護者の質問に回答	

今年度は、感染予防のため、中止した。例年、学校歯科医から保護者の質問に回答するコーナーが好評であるため、今年度は、保護者から学校歯科医による質疑応答を紙面で行った。質問回答の他に「歯とおやつ関係」やみがき残しの多い部分やブラッシング指導についてのワークシートを家庭でのケアに役立ててもらえるように配付した。



## ② 中学部1年生 歯みがき教室

日 時：令和3年11月25日（木）9：50～10：30

対 象：中学部1年生 19名 指導者：養護教諭

内 容：むし歯の原因、むし歯になりやすいおやつ、ブラッシング指導

感染対策のため今年度は、養護教諭1名ずつ2グループに分かれて指導を行った。例年は、カラーテストを行い、自分の口腔内の状態を観察し、実際にブラッシングをしながら指導を行うが、今年度は実施できなかったため、普段から身近にかかわる教員が事前にカラーテストを行い、その写真を授業で見ながらみがき残し部分の確認を行った。



## ③ 高等部3年生 歯みがき教室

日 時：令和3年12月13日（月）13：30～14：30

対 象：高等部3年生 30名 講師：学校歯科医2名

内 容：歯肉炎の原因と進行、ブラッシング指導、定期受診の大切さ

高等部3年生には、卒業後のセルフケアや受診行動などに繋がる指導を目的として行っている。高等部も例年集団で行うが、各教室の少人数で行い、学校歯科医と養護教諭が教室を移動し指導を行った。また、中学部同様、カラーテストの実施を中止し、歯肉炎の観察を丁寧に行う時間にあてた。



## 3 成果と課題

例年行ってきた歯みがき教室は、感染予防のため中止した学部もあったが、その中でできる方法を検討して、今年度も歯科保健指導を継続できた。特別支援学校においては、日々の歯みがき指導や口腔マッサージなど家庭への指導と合わせて学校での口腔ケアの必要性も高い。教員へのブラッシング方法の周知が児童生徒への支援に繋がるため歯みがき教室での保健指導の意義は大きいと感じる。

課題としては、保健指導の対象学年が限られているため、継続的な指導は学年によって異なる。対象学年以外にもカラーテストの実施や学年に応じた指導教材を配付するなど、自分の口腔の状態を知る機会や適切なブラッシング方法を、学校歯科医や養護教諭以外でも指導できるように定着できると良い。

また、フッ化物洗口に関して、例年、誤飲の危険がある児童生徒は実施せず、希望者全ての実施ができていない状況にある。うがいができない児童生徒でも実施できる方法を検討し、実施できるように計画を見直していきたい。

## 4 まとめ

### (1) 成果

- ・児童保健委員会においてこの状況で出来ることは何かを考え、見やすく理解しやすいよう工夫をした結果、電子黒板を通して全校と繋がる活動を進めることができた。(小学校)
- ・指導(養護教諭、学校歯科医師、歯科衛生士)については、相談をしながらできる範囲で実施した。毎年ある保健行事が無くなることは、児童の口腔衛生に対する意識低下が予想されるため、実施することができて大変よかった。(小学校)
- ・昨年度実施できなかった親子歯みがき教室をDVD学習という形を変えて実施できた。(小学校)
- ・食に関する指導は、歯みがき指導を行った後に実施したことで健康な歯をつくるためにはどのような食生活がよいのか理解を深めることができた。(小学校)
- ・今年度の受診率は48.3%と大幅に伸びた。その要因については次の点があげられる。①新型コロナウイルスの影響で部活動に制限が設けられ、時間の確保ができた ②検診時の学校歯科医からの直接の指導 ③個別の指導を実施できた(高等学校)
- ・例年行ってきた歯みがき教室は、感染予防のため中止した学部もあったが、その中でできる方法を検討して、歯科保健指導を継続できた。特別支援学校においては学校での口腔ケアの必要性も高いため、教員へのブラッシング方法の周知が児童生徒への支援に繋がる歯みがき教室での保健指導の意義は大きいと感じる。(特別支援学校)
- ・硬い食物(するめ)を喜んで食べる子もいる一方で、嫌がる子や食べることができない子も見られたが、その後のおやつで何度か食べていくうち、少しずつ抵抗なく食べられるようになってきている。今後もしっかり噛むことの大切さを伝えながら、継続して機会を設けていきたい。歯科健診後の受診については、個別の働きかけによりほぼ受診ができています。通知のやり取りにとどまらず、保護者との日常的なコミュニケーションの中での働きかけを大切にしたい。(幼稚園・保育園)

### (2) 課題

- ・DVD学習で知識を身につけることはできたが、染め出し等の体験学習ができなかったため、自分の歯のみがき方の課題を見つけることが不十分であったと考えられる。(小学校)
- ・食生活を改善するためには繰り返しの指導が必要であるが、コロナ禍では、給食の時間の指導が十分にできない。全校放送や給食たより、学級活動などの時間を利用して計画的・継続的に指導をしていく必要がある。(小学校)
- ・受信率は上がったが、まだ約半数の生徒が受診できていない。受診しない生徒の多くは、子どものころから歯科への意識が低く行動できていないと推測され、行動の変容は難しい。そんな生徒たちの行動変容に向けて、どう取り組んでいくのかが課題である。(高等学校)
- ・保健指導の対象学年が限られているため、対象学年以外にもカラーテストの実施や学年に応じた指導教材を配付するなど、自分の口腔の状態を知る機会や適切なブラッシング方法を学校歯科医や養護教諭以外でも指導できるように定着できると良い。(特別支援学校)
- ・フッ化物洗口に関して、例年、誤飲の危険がある児童生徒は実施せず、希望者全ての実施ができていない状況にある。うがいができない児童生徒でも実施できる方法を検討し、実施できるように計画を見直していきたい。(特別支援学校)

### (3) 最後に

新型コロナウイルス感染症の流行により、今年度の学校歯科保健活動は大きく制限を受けた。しかしながら歯と口の健康は、児童生徒の将来に大きな影響を及ぼすため、歩みを止めるわけにはいかない。そのような中、モデル校においては、各学校の事情に応じた様々な取り組みを行なっていただけた。手法は多種多様であるが、この中においても個別のアプローチや丁寧な受診勧告などが、ハイリスクアプローチや受信率の向上には効果があることが示唆された。また今年度は学校にて学校保健ができない分、家庭への働きかけが重要になった。

特に今後、報告にあったような電子黒板やDVD等を使った(このコロナ禍で図らずも進展した学校のICTを使った)取り組みはこれから益々進展していき、具体的には自分の口の写真を撮影して、それを元に歯肉炎や歯並びを観察し歯みがき方法を考える授業や、歯や口の病気についてインターネットで調べるといった、今までになかった取組みが始まると考えられる。この様なことを考慮しながら、来年以降も事業を継続していきたいと考えている。